

「心は自由だから」愛知黎明高等学校2年 位田 光璃

「あなたの脚は麻痺状態にあります。」もしそう告げられたら、あなたは どうしますか。私だったらきっと、言葉が出ないと思います。間違いなく自分の脚なのに動かさない。とても怖いと思います。私が、小学校からの大親友である美穂ちゃんは、とてもバスケットボールが上手な子でした。しかし、美穂ちゃんは事故に遭い、両脚が麻痺状態になってしまいました。私は、罪悪感で一杯でした。なぜなら、その日は美穂ちゃんのお誕生日でした。私はお誕生日会を開こうと考え、美穂ちゃんを私の家へ呼びました。その帰り道で事故に遭ってしまったからです。あの時、呼んでいなければ。後悔ばかりの日々が続きました。何度も、謝りに行こうと病院に行きました。しかし、病室に入る勇気がありませんでした。しかしある日、学校から帰ると美穂ちゃんのお母さんが、私の家で待っていました。私は、お母さんに全てを話しました。私のせいで美穂ちゃんが事故に遭ってしまったこと。病室に入る勇気が出なかったこと。それを聞いたお母さんは「あなたのせいじゃない。美穂は、お誕生日会すごく喜んでた。とても大切なお友達が、呼んでくれたんだって。美穂はあなたのこと恨んでなんかいない。」そう優しく言ってくれました。しかし、私の心の中のモヤモヤは消えませんでした。美穂ちゃんを不幸にさせた私は、幸せになる権利など無い。この考えが、ずっと消えなかったからです。そして翌日、病院に行きました。勇気を出して、病室に入りました。美穂ちゃんは笑顔で手を振ってくれました。私は思わず、泣き出してしまいました。一番辛いのは、美穂ちゃんなのに。それでも涙が止まりませんでした。そんな私を温かい何かが触れました。それは、美穂ちゃんの両手でした。美穂ちゃんは車椅子を使い、私のそばに来てくれたのです。私はやっと「ごめんね」が言えました。その声は震えていました。美穂ちゃんは笑顔で、「お誕生日会、すごく楽しかった。また来年もよろしくね。」そう言いました。私はここで素直にうん、と答えて良かったのか。それともう、美穂ちゃんとは会わないようにするのが良かったのか、分かりませんでした。ただ、泣いていることしか出来ませんでした。そして翌日、また病院に行きました。美穂ちゃんは、大好きなバスケットボールの話をしてくれました。しかし、そのバスケットボールはもう出来ないこと。出来なくさせたのは、私であること。その二つが頭をよぎり、涙を堪えるのに必死でした。私は、美穂ちゃんを救える方法はないか、徹底的に調べました。そこに、車椅子バスケットがあることを知りました。早速美穂ちゃんに教えて、一緒に見学に行きました。周りは脚を切断されている方、麻痺をお持ちの方で、一杯でした。しかし、一人一人が笑顔でした。そして私は、皆さんの俊敏に動く姿に圧倒されました。また、久しぶりにボールを触った美穂ちゃんは、とても嬉しそうでした。誰よりも輝いていました。私が、車椅子バスケットの見学に行って一番感じたことは、強さです。障がいがあるから、諦める。障がいがあるから、何もしない。ではなく、残存機能をどう活用していくか、自分にできることは何かを考え、行動していました。見学に行った帰り道、一

人の車椅子の男性に出会いました。その男性は、足を切断されていました。すると、通り過ぎた方が「あの人、普通じゃないんだね。かわいそうに。」そう言いました。その声は小さかったのですが、本人に聞こえたのかは分かりません。しかし、美穂ちゃんには聞こえていました。美穂ちゃんは「普通って何だろうね。」そうぼそりと言いました。私は、この世の中に、普通なんて存在しないと思います。人間は、みんな違う。障がいの有無などで、その方の価値観をはかるのは、違うと思います。障がいは、その方の個性です。障がいをお持ちの方はきっと、私たちより強いです。様々な苦難を乗り越え、今を精一杯生きています。それは本当に、凄いことです。その翌日、美穂ちゃんが「人生に壁ってあるでしょ。その人が乗り越えることが出来るから、神様が与えるんだって。だから、頑張っ乗り越えなきゃね。」そう言いました。私は、その考えに尊敬しました。私は今まで楽な道を選び、頑張った気になっていたからです。私は、美穂ちゃんに教えてもらったことが、沢山あります。例えば、障がいと共存していく素晴らしさ。それは、決して簡単なことではありません。しかし、今の自分に出来ることを考えて前を向く姿勢は、本当に凄いと思います。車椅子バスケットという新しい趣味を見つけ、仲間と笑い合っている姿は、とても輝いています。そして何より、誰の前でも涙を見せなかったこと。ある時、美穂ちゃんは「私が泣いたら、みんな悲しくなるでしょ。私は、みんなに迷惑かけてしまった分、周りを笑顔にしたいんだよね。」そう告げる美穂ちゃんの笑顔は、光っていました。周りの幸せを第一に考え、逃げたいくらい辛いことがあっても、真正面から突き進んで行く。そして誰よりも優しく、強くて、輝いている。そんな美穂ちゃんは、私の大切な親友です。これからも、ずっと。